



合併の経緯 — 隆郷村 —

旧隆郷村は、美和地域のほぼ西半分、常陸大宮市の西端にあった村です。西側を栃木県那須烏山市、那珂川町と接していました。

隆郷村は、江戸時代には高部村・入檜沢村・鳥子村・小田野村の4か村の村々でした。このうち、入檜沢村は、「入山坪」として上檜沢村内に所在していましたが、慶安年間（1648-52）に入檜沢村として独立しました（「水府志料」「新編常陸国誌」）。入檜沢村の庄屋役は高部村庄屋が兼任することが多く（「兼帯庄屋」という）、天保年間（1830-44）には高部村に吸収され、一村となりました。

鳥子村は、元禄16年（1703）に「鷺子村」と表記を変えて現在の大字名に継承されています。これらの地域では水戸藩特産の紙漉きが盛んで、有力な紙問屋が軒を連ねていました。

明治4年12月、戸籍区として設置された大区小区制の下では第10大区4小区（氷之沢・下檜沢・上檜沢・高部・小田野・鷺子）に組み入れられました。大区ごとに置かれる戸長には西塩子村の大貫慎介が就き、小区ごとに置かれる副戸長は下檜沢の小室藤次衛門、大岩の竹内源介が務めました（戸長・副戸長が別の村域から選ばれる場合がありました）。翌年4月には第11大区4小区に編成替えとなり、更に同8年には大小区の規模が大きくなり、上檜沢村や大岩村などとともに12か村で第4大区5小区に組み入れられました。



▲ 隆郷村事蹟簿（文書館蔵）

◇隆郷村の戸長役場

従来の町村の枠を超えた大区小区制は、明治11年7月に地方三新法（郡区町村編制法、府県会規則、地方税規則）が公布されたことにより廃止され、町村の枠組みが復活しました。これに伴い、郡役所が設置され（那珂郡役所は菅谷村に所在）、郡長の下に、およそ600戸に1人の割合で戸長を置くことが決まりました。これにより、当村域では、鷺子村・小田野村・大岩村の3か村連合と、高部村・上檜沢村2か村連合が

でき、前者は鷺子村、後者は高部村の戸長宅に、戸長役場が設置されました。

続いて明治17年の法改正で戸長役場の位置と所轄区域が再編され、この地域は、戸長役場を高部村に置き、小田野村・鷺子村・上檜沢村で構成される4か村連合となりました。

◇明治の町村合併

その後、明治21年に市制・町村制が公布されると、いわゆる「明治の大合併」の中で、高部村・小田野村・鷺子村が合併し、旧村名は大字として残ることになりました。「隆郷」という村名の由来について、『茨城県町村沿革誌』（栗田健夫、明治30年）は「本村ハ古来隆郷ト称セシヲ以テ…隆郷村ト名ク」（『美和村史』p640）としていますが、この地域に「隆郷」という地名があったことは確認できず、また合併時の記録も残っていないため、詳細は不明です。『美和村史』の編さんに担当として関わった元職員によれば、この点は村史編さんでも話題になったものの解明できず、掲載に至らなかったと回想されています。

合併後の隆郷村役場は、聞き取り調査によれば、はじめ高部地内の字谷熊に民家を利用して短期間置かれたようです（詳細な所在地は不明）。その後、明治33年頃に字関山（現在の美和支所の位置）に村が土地を購入、役場庁舎が新築されました（『美和村史料 新聞記事』）。

◇昭和の合併と隆郷村

昭和28年9月に町村合併促進法が公布されると全国的に「昭和の合併」への機運が高まりました。茨城県から提示された合併案にしたがって、昭和31年9月21付で隆郷・檜沢両村の合併がまとまり、新「隆郷村」が誕生しました（「文書館だより vol.16」参照）。5日後には新村名が「美和村」と決定し、旧隆郷村役場を本庁舎として新たなスタートを切ったのです。

高部孝夫さんに聞き取り調査のご協力をいただきました。

【参考文献】

塙泉嶺『那珂郡郷土史』宗教新聞社 大正12年、茨城県総務部地方課編『茨城県市町村合併史』昭和33年、『美和村史』平成5年、「水府志料」（『茨城県史料 近世地誌編』昭和55年）、『新編常陸国誌』宮崎報恩会 昭和56年、『美和村史料 新聞記事』平成14年